

新横須賀市史 通史編

自然・原始・
古代・中世

目次

序
凡例

(原始)

第一章

三

旧石器時代

第一節 旧石器時代の自然環境と文化……………五

人類史の曙 旧石器時代 旧石器時代の自然環境 日本列島の旧石器時代

三浦半島の旧石器時代遺跡

第二節 三浦半島の旧石器時代遺跡とその文化……………三

長井台地の三万年前の遺跡―打木原遺跡の土坑群― 長浜ノ上遺跡の石器群
最終氷期最寒冷期の大塚東遺跡 打木原遺跡の細石刃石器群

コラム 考古学と歴史年代……………三四

第二章

三

縄文時代

第一節 縄文時代とその自然環境……………三九

縄文時代の概要 三浦半島の地形と陸水環境 縄文海進と海域環境の変化

植生環境の変化 縄文時代の遺跡の立地と分布

コラム	完新統から産出する貝化石群集と縄文時代の貝塚	三
-----	------------------------	---

第二節	縄文文化の成立と変容 — 草創期・早期 —	五四
-----	-----------------------	----

土器の使用と弓矢の採用 — 草創期 —

海洋資源の開発と食料資源の多様化 — 早期前葉 —

生産体系の変化と周辺地域との交流 — 早期中葉 —

内湾漁撈の成立と精神文化の成熟 — 早期後葉 —

減少する遺跡と前期への変動 — 早期末葉 —

コラム	縄文時代に漁撈対象となった魚類	六七
-----	-----------------	----

第三節	環状集落の成立と地域性の顕在化 — 前期 —	六九
-----	------------------------	----

海進最高期の海と環状集落の成立

海進最高期の古久里浜湾と周辺の遺跡 — 前期前葉・中葉 —

増加する高地性遺跡と低地性遺跡の出現 — 前期後葉 —

第四節	集落構造の深化と地域圏の成立 — 中期 —	一〇一
-----	-----------------------	-----

海退期の環境変化と環状集落の構造の変化

海域の縮小と海浜空間利用の定着 — 中期前葉 —

遺跡の増加と中期的遺跡群の形成 — 中期中葉 —

中期的景観の出現と貝塚の形成 — 中期後葉 —

第五節	集落の変容と外湾性漁撈文化の発達 — 後期 —	一二七
-----	-------------------------	-----

第三章 二三

弥生時代

寒冷化と分散的集落への変化	
東京内湾南域から東京外湾での漁撈文化圏の成立と発展―後期前葉―	
減少する遺跡と狩猟への傾斜―後期中葉―後葉―	
第六節 激減する遺跡と縄文時代の終焉 ―晩期―	二三
激減する遺跡	
低地性遺跡の弥生時代への継続	

第一節 三浦半島における弥生時代の定着	一三五
---------------------	-----

弥生文化の波及 弥生文化の根付き

第二節 弥生人の暮らしと生活	一四三
----------------	-----

集落の形成 石器と木器(道具とその意義) 宮ノ台期における多様な生業
異形の石器と弥生人の祈り

第三節 弥生社会の変貌	一六三
-------------	-----

膨張する社会 集落にみる後期社会の多様性
海辺の暮らし(海蝕洞穴遺跡と砂丘遺跡の意義) 弥生時代の終焉

第四章 二八

古墳時代

第一節 古墳時代のはじまり	一八三
---------------	-----

第二節 古墳時代前期の三浦半島……………一八六

前期の様相 前期における三浦半島の集落と暮らし

前期における三浦半島の墓制

第三節 古墳時代中期の三浦半島……………一九九

前期と中期の画期 中期の様相 中期における三浦半島の集落と暮らし

中期における三浦半島の墓制

第四節 古墳時代後期の集落と墓制……………二一〇

中期と後期の画期 後期の様相 後期における三浦半島の集落と暮らし

後期における三浦半島の墓制

第五節 古墳時代終末期の集落と墓制……………二三四

終末期のはじまりと展開 古墳時代の終焉 終末期における三浦半島の集落

終末期における三浦半島の墓制

コラム 琴を弾く……………二三五

原始 掲載図版一覧……………二三七

原始 参考文献……………二四九

第一章 三二

古代の三浦半島

第一節 考古学からみた古代の三浦半島	二六三
--------------------	-----

「御浦郡」と「東海道」 古代寺院と瓦生産 古代の集落と人々の暮らし

第二節 文献からみた古代の三浦郡	二六〇
------------------	-----

三浦郡の範囲 鎌倉郡との境界 奈良時代以前の御浦郡

旧東海道と御浦郡 御浦郡の郡衙

第三節 三浦氏の登場	二六七
------------	-----

三浦氏の祖 平安期三浦氏と平忠常の乱 平安期三浦氏と前九年合戦

平安期三浦氏と後三年合戦 三浦莊司 三浦莊司任命の背景 為俊

公俊 三浦介の意味 三浦介と記す史料 義朝の動向

三浦介任命の時期と背景 義朝帰洛後

第四節 平安時代の信仰	三〇六
-------------	-----

三浦氏の寺院と信仰 衣笠城経塚

コラム 系図と武士成立論	三二二
--------------	-----

第二章 三五

鎌倉時代の三浦半島と三浦一族

第一節 治承・寿永の内乱と三浦一族	三七
-------------------	----

石橋山合戦と岡崎義実父子 由比合戦と衣笠合戦 頼朝の東国平定と三浦一族

三浦一族の西国遠征 奥州合戦と三浦一族

第二節 鎌倉幕府と三浦一族……………三八

宿老三浦義澄 幕府政治と和田義盛 鎌倉の騒乱と三浦一族の活動 和田合戦

和田合戦の戦後処理と実朝暗殺事件 承久の乱

第三節 鎌倉時代前期の政治と三浦一族……………三二

承久の乱後の処理と三浦一族 幕府新体制の成立と三浦氏

朝廷・中央寺社と三浦氏 義村の死 三浦一族と芸能 一族諸氏の活動

宝治合戦

第四節 三浦一族の信仰と社寺……………三五

岡崎義実と證菩提寺 三浦宗家の帰仏 その一―義澄の信仰

三浦宗家の帰仏 その二―義村の信仰 和田義盛と運慶仏 佐原氏と満願寺

第五節 三浦一族の地方展開……………三七

三浦一族と守護職 三浦一族の国衛支配 遠江国笠原荘と太平洋交通

紀伊国南部荘の地頭職と検注 陸奥国と三浦氏

大陸を見据えた筑前国宗像社・肥前国神崎荘 越後国奥山荘と越後和田氏

全国に広がる三浦一族所領

第六節 鎌倉時代後期の政治と三浦一族……………三九〇

佐原氏と三浦介 宗尊將軍時代の幕府政治と三浦一族 佐原氏と朝廷

義村遺子の動向と二月騒動 蒙古襲来と幕府の政変 内乱のはじまり

第三章 四三

第七節 三浦半島地域の名勝と村落 四〇三

名勝としての三浦半島 夢窓疎石と泊船庵 法華堂領大多和村の実態
大友氏領長坂郷

第八節 三浦半島の寺院と信仰 四一三

鎌倉新田仏教の潮流と三浦半島 天台宗の展開 真言宗 浄土宗 臨済宗
日蓮宗 三崎津と西大寺流律宗

コラム 三浦一族周辺の女性たち 四二〇

南北朝・室町時代の三浦半島と三浦一族

第一節 元弘・建武の内乱と三浦氏 四三五

後醍醐天皇の決起と三浦時明の出陣 鎌倉幕府滅亡と三浦一門
建武新政と三浦一門 三浦介の身分意識 三浦時継・時明の決起
時継・時明の滅亡 三浦介高継と三浦貞連 足利尊氏の勝利

第二節 南北朝内乱と三浦氏 四五四

三浦介高継の活躍 高継から高通へ 在京する三浦一門
足利政権の分裂と三浦一門 三浦介高通の敗北 三浦介高通の復権
三浦貞久の出走

第三節 室町時代の三浦氏と三浦半島 四七三

三浦介家とその所領 棟別銭徴収と守護三浦氏 守護代の現地検分

第四節	三浦一族の全国展開	四九四
-----	-----------	-----

下地遵行と守護・守護代 上杉氏と鴨江・平佐古・野比 寺院領と武士の所領

三浦一族のひろがり 横須賀氏系三浦氏 鎌倉公方の重臣となった三浦氏

「会津郡守護」葦名氏 葦名氏支族と東北の三浦諸氏 河内三浦林氏

今川氏家臣となった三浦氏 全国に展開した長江氏 大多和氏の活動

鶴岡八幡宮の供僧となった三浦一門 その他の三浦一族

「三浦深堀」氏としての意識

第五節	信仰世界の展開	五七七
-----	---------	-----

禅宗寺院の展開 無量寿寺の開創 三浦氏と禅宗 清谿通徹の活躍

大妙寺の日栄と石渡平三郎 日蓮宗・浄土宗寺院のひろがり

コラム	南北朝時代の有徳人の木像	五五五
-----	--------------	-----

第四章 関東動乱と三浦氏

三七

第一節	鎌倉府の滅亡と三浦氏	五三九
-----	------------	-----

上杉禪秀の乱と三浦氏 相模守護の交替 大多和村の領有をめぐる紛争

永享の乱と三浦氏 結城合戦と三浦氏 相模守護扇谷上杉氏の復活

武・林以下四か村をめぐる紛争 扇谷上杉氏との養子縁組

第二節	享徳の乱と三浦氏	五五六
-----	----------	-----

享徳の乱の勃発 和田郷竜徳院領をめぐる動向 三浦時高の隠遁

第五章

六〇九

戦国大名北条氏と三浦郡

第一節

玉縄城主の三浦郡支配

..... 六二一

玉縄城と三浦郡

三浦郡を管轄した玉縄城主たち

三崎城代と三浦衆

水軍の基地となった浦賀

一向宗の禁圧

房総への侵攻

横須賀氏の動向

上総峰上衆の人質

『北条家領役帳』の作成

三浦郡における領主と所領

第二節

北条氏規の三浦郡支配

..... 六三三

北条氏規の三崎城主就任

氏規の三浦郡支配にいたる背景

氏規の家臣たち

房総里見氏との攻防

水軍山本氏の活躍

備兵水軍梶原氏の動向

「向地」との攻防

「半手」の世界

海上の平和

氏規の雨乞い

第三節

三浦氏の領国支配

..... 五七四

三浦道寸の登場

長享の乱から永正の乱へ

三浦氏の領国形成

三浦氏の家中形成

三浦氏庶流家の動向

三浦道寸の文芸

道寸の文化的位置

第四節

三浦氏の滅亡

..... 五九〇

伊勢宗瑞の反乱

八丈島支配をめぐる抗争

真里谷武田氏との関係

岡崎城の落城

三崎城での籠城

三浦道寸・義意の最期

コラム

伝承・芸能の世界の三浦氏

..... 六〇五

第三節 戦国の村と地域社会 六五四

三浦郡の村落 村の負担 領主に仕える土豪たち 公郷の構造

公郷の有力者、石渡氏と古敷谷氏 田津浦の「浜代官」永嶋氏と葛網漁

三浦郡における生業 廻船する有徳人たち 公郷の百姓と領主の対立

領主と百姓の闘争

第四節 戦国の終焉 六七九

北条氏規と徳川家康 氏規の伊豆・韮山城在番 田津浦における出船の統制

惣無事令と小田原城の普請動員 人改めと民兵動員 氏規の上洛

小田原合戦と北条氏の滅亡 三崎城と三浦郡の動向 その後の氏規

徳川家康の関東入部と三浦郡

コラム 浦郷の領主朝倉氏 七〇四

古代・中世 掲載図版一覧 七〇七

古代・中世 参考文献 七〇八

略年表 七〇〇

執筆分担

史料所蔵者・協力者

(巻末)

あとがき

横須賀市史編さん関係者名簿

『新横須賀市史』発刊計画

■ 自然 目 次 ■

目 次
凡 例

■ 第1章 地球科学

第1節 三浦半島の地質 3

第2節 深海から生まれた三浦半島 7

火成岩類・超塩基性岩類
葉山層群の堆積(1800万～1400万年前)
コラム：地球のエネルギーで生きる貝
矢部層の堆積(1200万年前)
三浦層群の堆積(1200万～440万年前)
コラム：三崎層の生痕化石
鎌倉層群の堆積(820万～250万年前)
上総層群の堆積(250万～50万年前)
相模層群の堆積(35万～10万年前)
コラム：ナウマンゾウの名前の由来
関東ローム層の堆積(10万～1.2万年前)
縄文時代(1.2万～2,000年前)
現 世

第3節 三浦半島の活断層と災害 28

三浦半島の断層群
北断層群
南断層群
自然災害と地滑り・土石流などの土砂災害の危険性について
崖 崩 れ
地盤沈下と隆起
歴史地震に学ぶ

第4節 三浦半島の地形の特色 40

三浦半島の地形
活断層と地形
三浦半島周辺の海底地形
改変地形(人工地盤)

第5節 気 候 45

気 温
降 水 量
風

第6節 陸水環境 51

三浦半島の河川・ため池・灌漑用水について
三浦半島の湧水(走水の湧水、湿地)
水環境の保護(河川の改修と環境の保全)

第7節 自然環境の変遷 59

雑 木 林
農 耕 地
港湾環境(海岸線)
都 市 化

第2章 動植物

第1節 三浦半島の植物 63

植物相の概観
植生の変遷
野山の植物
三浦半島のシダ植物
海岸の植物
コラム：ハマオモト(別名ハマユウ)
植物の四季

希少植物
帰化植物
海藻と海草
きのこ

第2節 三浦半島の鳥類・陸上脊椎動物 89

三浦半島の鳥類相の概要
農耕とともに栄えた鳥類
都市化に適応する鳥類
20世紀後半から21世紀初頭の鳥類の生息状況
両生類の生息状況
爬虫類の生息状況
哺乳類の生息状況
付表：三浦半島産鳥類目録

第3節 三浦半島の淡水魚類と海洋生物 141

希薄になった淡水魚の生活環境
淡水魚類の生息状況
コラム：平作川流域でみられた川漁
外来種の淡水魚類
コラム：アメリカザリガニとウシガエル
外国からの移入魚
国内から移動されてきた魚たち
三浦半島の海域特性
豊富な生物相
コラム：天神島はウミウシの宝庫
東京湾の魚と漁
コラム：クサフグの産卵
相模湾の魚と漁

第4節 三浦半島の昆虫類 168

昆虫相の概観
自然環境と昆虫相

分布上注目される昆虫
減少した昆虫と増加した昆虫
コラム：校章や校歌に現れた昆虫
都市河川の再生とホタル
ホタルを通した水辺環境の保全と回復

引用・参考文献

執筆者・協力者・資料提供者一覧

付図：三浦半島の地質図